



一人ひとりの夢・思いを大切に

No.167

2026/4/1 発行

しなふく ニュース

品川総合
福祉センター
公式サイト



特集

直子の アートな世界



▲直子さんが制作した素敵な作品の数々

- 2P 「つながる壁」直子のアートな世界
- 3P 令和8年度基本方針・運営方針
- 4P 二十歳の集い | 品川福祉保健従事者実践・研究発表会
- 5P 保育フェア | 私たちの風景

- 6P 地域とのつながり
- 7P 豆知識 | らうんじ
- 8P しなふくの窓 | お知らせ

つながる壁 直子のアートな世界



▲直子さんの作品を職員がアレンジして、また違った魅力があふれています



▲直子さんの手作り作品を拝借して…「直子の作品を愛でて下さり嬉しい…」とお母さま



▲直子さんと独創的な作品たち



▲皆に愛される直子さんの作品と共に



▲覗き込んで魅入る方々

さまざまな人・機会とつながる「つながる壁」。法人本部の正面入り口を入ると、目の前に壁があります。利用者や施設が、地域のボランティアさんや学校、企業とつながり、さらに、作品を見た人が、新たな想いや出会いにつながっています。

令和2年のコロナ禍で始まった「つながる壁」は、この5年間で、59回掲示を行いました。今回は、令和8年1月に掲示された、かもめ園利用者の「直子のアートな世界」をご紹介します。

制作者である直子さんの楽しみは、編み物や刺繍をすること。糸選びや刺繍糸の選択も自分でおこなっています。一度取り組み始めると時間を忘れて何時間でも熱中しています。

18歳～19歳に通所していた作業所で刺繍を習得。東京に移り30歳に通所し始めた施設で編み物を習得されました。手先が大変器用で、折り紙、ビーズ、様々な折り紙作成も得意です。過去には、独創的な編み物作品を制作され、障害のある方の作品展「東京ブリュット展」に出展された経験もあります。彩り豊かな色彩を施した繊細な模様を刺繍した直子さんの作品を、ボランティアさんがバッグやクッションカバーに仕立て、有楽町で展示会にも出展されました。

直子さんの作品を形にするのは、ずっと支えてきたお母様の一つの夢でもあったそうです。バックになった直子さんの作品を、大事に持ち歩かれているお母様の熱い想いも、直子さんの作品作りの原動力になっているのかもしれません。

作品には直子さんの感性や経験が刻まれており、見る人に深いメッセージと感動を届けました。ロビーに入った方が、必ず足を止めて魅入るという姿がたびたび見られました。

直子さんは、今年度から6階の作業所に通うようになりビーズの生産活動に参加し、作業内容をすぐにマスターされ、精度の高い作品を作られています。今後のご活躍が楽しみです。

障害のある方にとっての作品作りは、単なる趣味や活動ではなく、それは、自らの存在価値を表現し、社会とつながるための大切な手段でも考えています。

直子さんが今後、どのような自己表現をし、幅広い作品を制作し、より豊かな気持ちで生活を選択し過ごしていけるか、ご本人の気持ちやペースに合わせた環境を大切にしたいと思っています。

令和8年度 基本方針・運営方針

1, 基本方針

法人理念に基づき「地域における福祉の発展・充実」を使命とし、安定的・継続的・発展的経営に努めるとともに、多様な福祉課題に柔軟かつ主体的に取り組めます。

2, 重要課題

(1) 第二次未来創造図（中長期計画）の実現に向けた取り組みを継続します。第三期中期経営計画の目標達成に向けて、具体的な取り組みを進めます。将来に向けて成長が実感できる組織作りと資源を備えてまいります。

(2) 中期経営計画の人権擁護、人材確保、収支改善の3テーマのうち、未達成の課題と新たな課題を整理し、実施します。

- ① 利用者の尊厳を尊重し、利用者および家族の安心と安全な生活を支える支援や職員モラルに関する問題点について職員一人ひとりの自覚を促し、専門性の高い支援と対人援助専門職としての人権意識及び倫理観の醸成を進め、虐待のない組織作りに取り組めます。
 - ② 人材育成を重視し、職員が生き生きとやりがいをもって働けるようメンタルサポートを含めた働き方改革に取り組めます。特定技能外国人材の受け入れや職員紹介制度による人材確保に加え、各学校実習生の積極的な受け入れや離職を防ぐことを法人戦略として取り組めます。
 - ③ 経営状況を鑑み各施設単位で稼働率の確保、コスト削減の取り組みを徹底します。各事業所の稼働状況を分析し収支改善をします。法人全体の経営課題を共有し、早期に対策を実施し、経営目標を達成します。
- (3) 法人職員で構成するタスクフォースの取組を継続し、より一層の経営改革と将来を見据えた経営基盤の強化を行います。

(4) 人権擁護、コンプライアンス維持の観点で法人職員の意識を醸成します。

(5) 個別研修計画を策定し、職員一人ひとりの能力を育成します。

(6) ICT導入を継続し、利用者の安全確保と業務負担の軽減につながるICT化を進めます。また、通所事業所のICT導入を進めます。

(7) 利用者が安心して生活できるよう、また、職員も安心して業務ができるように災害や感染症全般の最新情報を収集し、適切な対策を実施します。

(8) 各施設の強みや取り組みの発信を活性化し、「地域とともに」の理念のもと品福ブランドを確立します。

(9) 各拠点における地域ニーズ等に応じて、自主性・創意工夫の下、「地域における公益的な取り組み」を進めます。

(10) 八潮南特別養護老人ホーム増改築および八潮在宅サービスセンターの既存棟への移転について、区と共に取り組めます。また、増改築に伴う職員採用計画に着手します。

(11) 中延複合施設の大規模改修について、区と協議し準備します。

(12) 八潮北保育園の指定管理者の更新に備えます。



令和8年 二十歳の集い

令和8年1月15日に二十歳の集いが開催されました。法人内では3名の利用者が、20歳というおめでたい日を迎えられました。

当日は、成人を迎えた2名の方と法人内の職員が集まり、式典を実施しました。永田理事長による挨拶の後、成人を迎えた利用者の紹介、記念品・花束贈呈、集合写真の撮影、お食事会を行いました。

記念品贈呈では、各施設がご本人への記念品を考え、心を込めてお渡しさせていただきました。

その後は、皆さんでお祝い膳をいただきました。お花型に型どったお赤飯やお刺身・天ぷらなどの豪華なお食事を楽しまれました。参加された利用者も、式典中はいつもと違う雰囲気に対し緊張された様子でしたが、お食事の時間には穏やかなひとときを過ごされていました。また、利用者が生まれた頃の品川総合福祉センターの様子についての思い出話をしたり、20歳に向けた抱負を語り合ったりしながら、和やかに食事を楽しまれていました。20歳という大人の仲間入りをされた利用者の皆さまが、これからも輝かしい人生を歩まれますよう、心よりお祈り申し上げます。



▲笑顔で写真撮影



▲ギターとフルートの生演奏で祝宴が盛りあがりました

品川福祉保健従事者実践・研究発表会



▲研究発表会の様子



▲発表後、理事長と一緒に撮影

令和8年2月9日(月)、品川区役所で行われた「品川福祉保健従事者実践・研究発表会」に、心身障害者福祉社会館機能訓練事業所が発表者として参加しました。私たちは、障害のある方の夢や目標の実現に向けて、お一人おひとりに合わせた訓練を提供する施設を目指しています。利用者の約8割が高次脳機能障害の診断を受けていることから、今回は高次脳機能障害者の支援に焦点を当てた取り組みについて発表しました。詳しくは、ぜひ機能訓練事業所までお問い合わせください。

当日は、品川介護福祉専門学校30周年記念式典もあわせて開催され、さらにコロナ禍以降初の対面での発表会ということもあり、ひととき緊張感のある場となりました。しかし、高次脳機能障害について広く周知をすることができたのではないかと感じています。また区内にこのような支援を行っている事業所があることを知っていただく良い機会にもなったと思っています。今後もこの舞台に再び立てるよう利用者支援のさらなる充実に向けて精進していきます。



施設の取り組み紹介

保育フェア



▲保育フェアの様子

昨年12月に八潮北保育園・八潮中央保育園共同開催で、保育の仕事に興味がある方を対象に保育士・保育所の魅力を紹介する「しなふく保育フェア」を行いました。

保育園紹介のスライドショーでは、1日の生活の流れや様々な行事の様子と可愛い子どもたちの写真を紹介しました。またお仕事紹介コーナーでは、子どもたちが大好きなはらぺこあおむしのパネルシアターの実演、手作り玩具紹介、リトミック体験を楽しんでいただきました。保育園内の見学だけでなく、散歩先の公園にも実際のルートで歩き、散歩を体感する機会もありました。そして、参加者の皆さんと職員で軽食を食べながらの座談会では、保育士になって嬉しかったことや保育士になりたい動機等、短い時間でしたが語り合い、終始アットホームなイベントになりました。来年度も「しなふく保育フェア」は開催予定です。未来の保育士の皆さんの参加を心待ちにしています。

vol.
12

私たちの風景

＼ 日常のひとこまをご紹介致します /

心身障害者福祉会館

かぶ
園芸活動・品川蕪品評会

収穫しました！



品川区立心身障害者福祉会館の生活介護事業所では、屋上にある小さな菜園で、季節の野菜作りを行っています。ご家族にいただいた苗を大切に育て、今年の夏は、トマトやキュウリ、ナスなどの夏野菜の収穫を利用者と楽しむことができました。

昨年9月、江戸東京伝統野菜の「品川蕪」の栽培の挑戦をスタート！そして昨年12月21日に聖蹟公園で開催された、「第12回品川蕪品評会」には、心身障害者福祉会館の生活介護が育てた「品川蕪」を初出品することができました！9月にいただいた種で、種蒔きを始め、水やりを行い「立派な蕪が育つように」と願いを込めて成長を見守ってきました。その甲斐あって沢山の品川蕪を収穫することができました。

「品川蕪」と当法人の出会いは、平成30年頃。「品川蕪」復興の第一人者大塚好雄さんとしなふくニュース (No.134) のインタビューをきっかけに、種をいただいたのが始まりです。「品川蕪品評会」には、例年参加している当法人のかえで荘とかもめ園の園芸サークル、大井三丁目高齢者憩いの場の園芸倶楽部に加え、八潮中央保育園と心身障害者福祉会館が初出品しました。

今回は受賞ならずでしたが、江戸伝統野菜の品川蕪の知名度を上げ、文化の継承と未来に繋げる子どもたちと地域の活性化を目指し、私たち心身障害者福祉会館も未来へ担う一員として来年も参加を目指したいと思います。



No.6
が会館で育てた蕪

地域との つながり

フリースペースしなふく わたしの居場所

令和7年9月より、月1回の日曜日、八潮地域（区内）の小学生から高校生を対象にした、誰でも気軽に立ち寄れる居場所「フリースペースしなふく わたしの居場所」の開催をスタートしました。

自分が安心できる場所、ありのままの自分でいられる場所、少しでも元気になれる場所として、ゲームだけでなく・おしゃべり・勉強など好きなことができる環境を用意しています。

この居場所は、区内で幅広く、子ども対象の居場所を企画開催している「学生団体ルピナス品川」の学生さんたちと協働開催しています。ルピナスさんは、室内でできるカードゲームやボードゲームなどの様々な遊びを用意し、子どもの趣向や想いを尊重しながら、楽しい空間を作っていくサポート名人が揃っていて、心強い存在です。現在はまだ、利用者が少ない状況ですが、少しずつ、子ども達の拠り所になれる居場所を、共に目指しています。

「学校」と「家」以外の第三の居場所（サードプレイス）は、単なる「遊び場」ではなく、「心の安全基地」、「多様な人との出会いの場」、「自己肯定感を育てる場」、「孤立を防ぐ社会的セーフティネット」など、子どもや若者の健全な成長において、非常に重要な役割を担っています。第三の居場所の少ない地域ニーズを鑑み、少しでも、子どもたちの心の幸福感が高まるよう寄り添っていきたいと考えています。



▲それぞれ好きなことをして自由に過ごせます



▲12月はサンタクロースが来ました！

しなふく食堂コラボお弁当



▲ヒレカツ弁当大好評！



▲お弁当1個200円です！

令和7年度、東京都社会福祉協議会東京善意銀行の「かみつぐ助成金」の支援を受け、約30食のお弁当を200円で月2回提供しました。令和7年4月からの1年間で、768個のお弁当を、八潮地域を中心とした区民の方にご利用いただきました。「お弁当始めます」広報ちらしの配付に始まり、毎月お弁当の広報ちらしをセンター周辺に掲示すると2～3日で定員に達するくらいの勢いです。皆さまに喜んでいただいていることに加え、生活上の悩みを直に受け止められる機会になりました。助成金は今年度で終わりますが、皆さまの強い要望にお応えし継続していきます。

高齢、障害、子どもの枠にとどまらず、すべての人の幸せのために地域社会ニーズに目を向け、地域福祉力向上のために、様々な課題解決の糸口として、お弁当を提供することで、出会い、つながり、信頼を築けるよう今後も努めてまいります。

豆知識

調味料のケチャップはアジアが起源？

メジャーリーグをテレビで観戦中、美味しそうにホットドッグやハンバーガーを食べている観客を見ると夜中でも食べたくなくなってしまうのは自分だけではないと思います。

今回はハンバーガーに欠かせないケチャップについて調べてみました。

ケチャップの起源は東南アジアの魚介類をベースにしたケチャップに遡ります。イギリスの探検家がアジアを訪れた際にケチャップに出会いました。それは塩漬け発酵した魚や、きのこ、酢、スパイスを加えた調味料でした。

イギリスに持ち帰り徐々にレシピに野菜類が多くなりトマトも加えられるようになりました。現在の形に近くなるのは、19世紀のことです。アメリカでトマトを主原料にした物が商品化され、胃腸に効く胃腸薬としてケチャップシロップの名前で販売されました。

その後、家庭でも作られるようになり料理でも使われるようになったことと、保存技術の向上や大量生産体制の確立により、現在のトマトケチャップが製造されることになりました。

美容面では、トマトにリコピンなど日焼け止め効果もあるので、日焼けが気になる方はケチャップを生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。



らうんじ



昨年、大阪・関西万博が話題になりました。

私が子供の時、近所に、大きな角のようなものがある奇妙な建物があり、気になって見に行きました。それは、1970年の大阪万博で有名な「太陽の塔」で知られる岡本太郎が手掛けたものでした。

「他人が笑おうが笑うまいが、自分の歌を歌えばいいんだよ」という岡本太郎の言葉があります。他の評判を気にせず「自分らしく」「ありのまま」で良いという優しさと「自分を貫く」という強さを感じます。

岡本太郎の作品は全国にあり、その作品を見ると、街中では奇妙な存在でありながら、平然と堂々としていてユーモラスであり、言葉通りの強さと温かさを感じることができます。

私たち福祉の仕事は、障害や病気があっても「自分らしい生活」を支援する仕事だと思っています。私も社会福祉法人の一員として、誰もが地域の中で、自分らしく生活できる社会の実現のため、日々の仕事を頑張りたいと思います。

八潮南特別養護老人ホーム グループホーム八潮南 副施設長 山田 裕子

しなふくの窓

このコーナーは普段は目に留まらないちょっとした**ホッと**するものを「しなふくの窓」を通して写真で紹介するコーナーです。



▲春はお花見！

寒い冬がようやく終わり、満開に咲き誇る桜を見て、春の到来に喜んだのも束の間、花びらが散り始め、春の短さと儂さを感じます。かもめ園の園庭には桜が描かれた春バージョンのベンチがあります。これは、職員と利用者が製作したものです。

4号にわたって春夏秋冬の絵が描かれたベンチを紹介してきましたが、ベンチに描く絵を季節モチーフにした理由は、利用者にわかりやすく楽しい絵にしたいという職員の思いによるものです。まさに桜は日本の春の象徴ですね。年々短くなっているように感じる春の季節ですが、利用者とともに、短い春を楽しみたいと思います。

後援会ご入会のお願い

後援会では利用者の皆様の生活の充実を図るために活動しております。皆様からいただいた会費は、法人本部の花壇や植栽の整備、福祉車両や会議&シアター設備備品の購入等、法人が運営する事業等で使用しております。また、後援会の事業の募金箱の設置もお願いしております。皆様のご協力をお願いいたします。

会 費：月額一口… **300円**
1年分… **3,600円**

後援会事務局：地域福祉課

☎ 03-3790-4839

ご意見・ご要望はこちらへ

施設サービスに対するご意見・ご要望はこちらへご連絡ください。

また、品川総合福祉センターの各事業所の玄関に設置してある「声のポスト」へ、お手紙にてお入れいただくことも可能です。

受付時間：土・日・祝・年末年始を除く
月曜～金曜 9:00～17:00

苦情解決第三者委員会直通電話

☎ 0120-37-4729

福祉の現場で一緒に働きましょう！

品川総合福祉センターでは常勤職員・非常勤職員（パート、アルバイト）を募集しています。「高齢者施設」「障害者施設」で特別な資格や経験がなくても始められる生活サポートのお仕事、「保育園」でお子さんの保育のお仕事を募集しています。常勤職員または短時間での非常勤職員でも歓迎です！ぜひ一緒に働きましょう。

募集施設 品川総合福祉センターの品川区内の高齢者施設・障害者施設・保育園（すべて区内にあります）

募集職種 介護士・生活支援員（**特別の資格・経験がなくても大丈夫です**）
保育士・介護支援専門員・看護師（**資格要**）等

応募・問合せ先 社会福祉法人品川総合福祉センター 事務局（人事・企画課）

メールアドレス jinjikikaku-k@shinafuku.org

詳細はこちら

電話番号 **03-3790-4729**

受付時間 平日 9:00～17:00



品川総合福祉センター広報誌 しなふくニュース No.167

2026年4月1日発行

発行人：永田元

編集人：しなふくニュース編集委員会

URL：https://www.shinafuku.com/

発行所：

社会福祉法人品川総合福祉センター

☎ 03-3790-4729

📍 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1